

私のターニングポイント

—私はこれでキャリアを決めました—

編集にあたって

五十嵐悠紀 明治大学

本小特集は、情報処理分野で活躍するさまざまな職種の方に、ご自身のキャリアを振り返って「ターニングポイント」について執筆していただいた、エッセイ集になっています。進路決定前のジュニア会員、学生会員にとっては今後のキャリアパスを検討する上での参考になるよう、またその一方で、幅広い情報処理分野の職業を取り上げることで、最近のIT系の人たちはどのように意思決定しキャリアデザインしているのか、情報処理分野の職業を俯瞰できる企画にもなるよう意識しました。執筆していただいた20名は、大学や企業の研究者だけでなく、IT企業の経営者から理系出身の役人さん、文系出身のエンジニア、今ブームのICT教育関係者など多岐に

わたって活躍されている方たちです。人選では昔と今を対比して、シニア層が読んでも楽しめる企画になるよう、若い人から大御所の方まで幅広く選出することを意識しました。そして、通常の特集とは異なり、あえて文体の統一はせずに、各々のカラーを残すことを意識しましたので、各執筆者の個性もあわせて楽しんでいただけたらと思います。

自分の経験を振り返ってみても、何らかのターニングポイントが目の前に迫っているとき、「今がまさにそのとき！」と気づけることはなかなかありません。大学に入ったとき、就職したとき、といったような分かりやすいターニングポイントがあれば、何年かしてから振り返ってみてようやく、「あのと



きこうした出会いがあったから」,「あのときこっちを選択していたから」今の自分があるのだ,と気づく転機もあります。執筆者のみなさまには,今のご自分を振り返って自分にとってターニングポイントと呼べる瞬間はいつだったのか,今の仕事はどういったことをされているのか,この職業を選んだ決め手はなんだったのか,などさまざまな視点から執筆していただきました。特に,情報処理分野では技術発展も早く,気づけばそれまで人間の仕事だったものが機械の仕事になっていたり,これまでにない職業が生まれたりしています。そういった視点から見ますと,「〇〇×IT」といった職種のターニングポイントも大変興味深いものとなっております。本特集記事が読者の方にとって,ご自身のターニングポイントを振り返るきっかけに,そして新たな視点を持つきっかけになるとうれしく思います。

執筆者のみなさまからいただいた,若い人への

メッセージを,それぞれのエッセイの最後に囲みで入れさせていただきました。こういった企画を4月という新しい気持ちで出発する時期に出すことを意識した結果,多くの方々に本当にお忙しい時期にご執筆していただくことになってしまいました。快くお引き受けいただき,自らのご経験を振り返り,さらにはさらけ出し,執筆してくださったみなさまに感謝します。

このような理系キャリアの話の中でも,特にどのような大学時代を過ごしていたかに興味のある方は,2015年4月号「<特集>私の大学時代—新世界に踏み出す皆さんへ—」(Vol.56, No.4 通巻601号)を,博士課程への進学に迷っている方は,2017年5月号「<特集>博士課程進学のメリット・デメリット」(Vol.58, No.5 通巻626号)もあわせてぜひご活用ください。

(2018年1月29日)